

平成27年度 公募形式調査研究における助成対象一覧

テーマ	題名	代表者の所属機関等	研究体制	研究内容(概要)
高齢者	ドライブレコーダーを活用した高齢運転者の運転適性診断	株式会社リムライン	4名	被験者の車両に、前方及び車内(運転者含む。)の映像、走行位置、速度、加速度等を収集できるドライブレコーダーを設置して一定期間データを収集し、映像目視による運転中の行動(安全確認、車線内位置、各種操作の円滑さなど)の確認・分析に加えて、運転者の行動と車両挙動(加減速の円滑さ、最高速度等)・走行エリアとの関係について分析を行う。 これらの分析結果から、運転の適性を総合的に判断する手法・指標を案出し、高齢運転者を対象とした運転適性検査を行うことで、高齢運転者の安全運転寿命を延ばし、かつ運転継続の判断を自主的に行えるシステム構築の研究を行う。
高齢者	「運転時認知障害早期判定システム」構築のための基礎研究	特定非営利活動法人 高齢者安全運転支援研究会	9名	鳥取大学の浦上教授が開発した、認知症スクリーニングプログラム「物忘れ相談プログラム」を利用して、団塊世代に属する人の中から、軽度認知障害の疑いがある人を被験者としてピックアップし、実車実験、自転車シミュレータによる走行実験等を行う。 当該実験で得られた単独での自動車運転特性と事故につながる運転挙動とを対応させ、自動車を単独で走行させることで早期認知障害を発見する「運転時認知障害早期判定システム」において検査すべき危険運転挙動を抽出するなど、同システム構築のための基礎研究を行う。
自転車	自動車対自転車事故の削減にむけた要因分析と対策	東京農工大学大学院 工学研究院	3名	ヒヤリハットデータベースを分析して、速度や経路、見え方、大きさなど、車両対自転車の事故形態や自転車事故特有の要因について検討するとともに、これらの情報を検証することにより、代表的な事故・ヒヤリハット要因を明らかにする。 また、判明した要因について、シミュレーション技術や実車環境を用いて、実際に何が起きていたかを再現し、その危険性を伝えるとともに解決方法を考える。
事業用自動車	ドライブレコーダ映像からの映像情報を用いた危険度推定	九州工業大学大学院	2名	運送事業者の協力を得て、タクシーや配送用トラック等の事業用自動車に設置されたドライブレコーダ映像を収集し、運転時の映像、速度情報、電子地図情報等により得られる総合的な運行状況を自動解析し、運転手も認識していない、車体の挙動を計測しても検出することのできないヒヤリハットを自動で収集するための画像処理システムを構築することを目指す。